戦争当時、日本全体の半分の弾薬を舞鶴で製造
『第三火薬廠』

金融労連近畿地協事務局長　阿部正巳

第二次世界大戦当時、日本海軍爆薬部は日本全体の約半分の弾薬を舞鶴の『第三火薬廠』で製造し、爆弾供給地となりました。戦艦大和の砲弾も舞鶴で製造されたと思われます。場所は国立舞鶴高専の裏山など朝来地区です。

今回、令和 7 年 10 月 7 日、舞鶴市の許可を得て特別に見学しました。舞鶴観光ガイドボランティアの例会として、15 名が見学しました。

昭和 15 年に『第三火薬廠』が日本海軍爆薬部の決定により、舞鶴で開設し、爆弾の製造拠点となりました。住民は有無を言わさず強制疎開させられました。また、爆弾製造に任命された工員は学徒 1300 名を含め、5000 名です。工員たちは火薬の影響による皮膚病に苛まれました。

グリーンスポーツセンターのバーベキュー棟は『第三火薬廠』を改修したもので、当時の面影を残しています。

戦後『第三火薬廠』はロシア病院と称して肝試しのスポットでした。心ない人が水道栓を破壊したため、現在は舞鶴市の許可を受けた人しか入れません。戦争当時の戦跡を訪ねることにより、平和であることの尊さを実感させられます。

阿部　正巳